

「中心市街地における公共施設の在り方に関する検討会」

(傍聴して思うこと)

1. 諸条件（緊縮財源下での検討のため下記の方針が示されている）

- ① 既存施設の有効活用
- ② 施設規模の適正化と地域コミュニティの強化
- ③ 市民サービスの継続的な提供
- ④ 公共施設の複合化・多機能化
- ⑤ 民間活力の導入
- ⑥ 有利な財源や基金の積み立てなど財源の確保

2. 共有したい概念

- (1) 多世代が集い交流を図る場を整備（図書施設やカフェ・学習機能）
- (2) コミュニティ機能
- (3) 児童館
- (4) 親水公園を整備（多世代が集える公園＋マルシェ等が開ける広場）

3. 現状の問題点を分析します

上記1 & 2のガイドラインは、誰もが納得いく内容だと思います。つまり緊縮財源が前提としてダウンと重しとして置かれている現状を鑑みると行政・事務方の検討方針（ガイドライ）が妥当なものと賛同いたします。

しかし、残念ながら『この街を将来どのようなまちにしたいかという夢』が語られていません。つまり、施設や場所を準備するからあとは自分たちで利用して下さい。どのように使うかは自分たちで考えてください。個人の責任、個人の頑張り任せに任せる・・・昨今はやりの新自由主義的発想の枠から脱出できていないと思います。

確かに使い方は利用者次第です。しかし、その施設や機能に行政の思い入れ（物語）があれば、利用者はその物語を意識すると思います。それが住民のつながりや結束に繋がり、地域活性化に結び付くと考えます。行政が誘導するようですが、新自由主義では住民の意識は発散するばかりでまとまりを取り戻せません。

社会が、特にこの地域が直面している「少子高齢化」「貧困・格差」「介護問題」「良い働き場所不足」「人材不足」「後継者不足」・・・これらのうちのどれか一つ、あるいは複数の課題に向けた解決策の糸口に繋がるように、今後設置される施設が果たす役割に触れる目標（夢）を語って、住民を引っ張

っていくことが、今行政・議会に求められていると思います。

そこで、一市民として下記の提言をしたいと存じます。

4. 提言（その1）

かすみがうら市の特徴と課題の例を挙げて、後継者不足・人材不足にスポットを当てた一つの提案をしたいと思います。

【課題－1】

かすみがうら市の特徴として、梨・栗・ブドウ・柿・（はす）などの果樹栽培が最近まで盛んでしたが、後継者不足等の影響でドンドン衰退しているように見受けられます。

【課題－2】

この地区には普通科高校が1校しかありません。

この二つの課題解決のため、農業科に特化した「昼間定時制農業高校（修業年限4年）」を設立する。農業に「夢・志」のある生徒を全国から募集する。従って、寮施設も必要
地元の農家で学ぶ実習や平日の就労体験活動を通して未来の農業の担い手を育てる実学教育を重視する学校とする。

同時に、果樹園運営の技術革新の研究・開発も担えるようにする、例えば、阿見町にある茨城大学農学部の指導を仰ぎ共同でカメムシを寄せ付けない梨園造園の開発や梨を利用した六次産業の検討などの研究室も併設する。（梨に限らず、他の果樹も課題解決および六次産業化の検討を進める。）

このアイデアは、奈良県・五條市立西吉野農業高校を参考にしました。是非、当地でも取り入れて頂きたい（別紙参照）

この目標を設定した場合の現在検討されている公共施設の運営方法を考えてみましょう。

運営方法

- ① 意識的に果樹園経営者と茨城大学・農学部の研究者が交流する場面を作り出す
- ② 果樹園経営者に農業高校のコンセプトをPRし、協力者になってもらう
- ③ 六次産業化に向けた準備（専門家による講習、調理方法の検討ができる研究室的調理室）
- ④ 公園に市民が育て、管理する「梨」「ブドウ」「柿」「ブドウ」などの木を数本植え、市民にも果樹を近くに感じる機会を準備する。

このような運営ができるように、現在検討中の施設に若干手を加える。

5. 提言（その2）

現在・将来ともにインターネットの利活用は、教育面・仕事の両面で重要なテーマとなります。徳島県でインターネット環境を整えてネット関連の企業を誘致し、ある程度成功しているという話題があります。当地でも新しい施設にインターネット環境を整え、優秀な指導者を常駐させて、インター

ネット（ゲーム、E-スポーツ、AI、SNS など）に興味のある若者が集える環境を整える。
そこから、起業家や教育者が育ってくれることを期待する。
（私の勉強不足で詳しい内容の提言は出来ませんが、意図する方向性が伝われば幸甚です。）

6. 提言（その3）

立派な公会堂が望めないなら、野外ステージ&ドーム式観客席を公園に設置する。
地域の「みんなの夏まつり」、「生涯学習フェア」、「スマイルコンサート」などイベントが開催できる施設が下稲吉中学校区にはありません。屋外ステージだと空調はできないため、酷暑・極寒時期の開催は難しいでしょうが、気候の良い時期の開催は可能です。観客席もドーム式でテントが必要に応じて張れるようにしたいものです。
全国にこのような事例はありますが、東京・ラクーアガーデンステージ と 徳島県立21世紀館を参考として挙げておきたいと思います。

7. 提言（その4）

図書館を考える場合、蔵書数を誇るような大型の図書館を建設することが難しいのであれば、機能はかなり限定して「子ども図書館」とすることを推奨します。その理由は、

- ① 子ども図書館とすることにより、親子で来館しやすくなり、なおかつ幼少期から本と接する機会を提供できます。
- ② 大人向けの図書は、あじさい館の分館程度を書架に並べておく。読みたい本があればあじさい館や土浦図書館などとインターネットで結んで定期便で取り寄せが出来るようにする。自宅からインターネット経由で依頼した本が届いたら、受け取りに行ってお茶を飲みながら読書が出来る場所を提供する。
- ③ 司書の人数を充実させ、本に関する相談を積極的に受け付ける。また、学生（小学生・中学生・高校生）の悩み相談も受け付けるためカウンセラーを配置する。